

令和5年度 地域発 元気づくり支援金 事業評価・優良事例選定案

事業番号	事業名 (継続事業の年数)	団体名 (所在地)	事業実績 (主な用途 ①: ソフト事業 ②: ハード事業)	事業費		講評
				総事業費	交付額	
1	地域づくりの祭典!“美し郷” 喬木まつり(仮称)の開催	喬木村	住民の活動発表の場として、新たなお祭りを地域住民主体で開催 ・村全体を巻き込むため、地域団体等から構成される実行委員会を立ち上げ ・新たに村外からも参加団体を募ってステージ発表を実施 ・新たに中学生が練習から参加する盆踊りを実施 ・住民団体による竹灯籠ワークショップ ・住民が作成した小物等を販売するハンドメイド・フリーマーケットを開催 ①新聞広告費、会場警備費、巡回バス運行、会場設営費	5,154	3,164	祭りの実行委員会には多くの団体が参画し、盆踊り等には中学生がボランティアとして参加する等、多くの住民が参加するお祭りを作り上げた。お祭り当日も多くの来場があり、村全体で盛り上がる事ができた。 今後は今回のお祭りにおける改善点を反映するとともに、より多くの住民の参画により、住民主体のお祭りとして定着していくことを期待する。
2	古典舞踊育成会「飯田まい珠」による伝統文化の育成	小京都飯田伝統文化育成会	「小京都飯田」として培ってきた古典舞踏を継承していくため、次の事業を実施 ・継承のための稽古場と備品を整備 ・地域企業と連携して担い手となる若者を集め、舞踏・邦楽の稽古を定期的実施 ・古典舞踏を広く知ってもらうため、夏休み子供和楽器体験会を開催するとともに、発表会で稽古の成果をお披露目する ①舞踊・邦楽用備品、稽古場備品、会場使用料、記録用映像撮影費用 ②三弦、音響機器	5,053	3,996	小京都飯田として培ってきた伝統文化の伝承に取り組んだ。 今後も特に若い世代への周知や伝承に向けた取り組みにより、主体的に古典舞踊に関わる若者を増やしていくとともに、会費やお披露目の際の公演料の徴収、寄付金の受け入れ等により自走に向けた取り組みを検討されたい。
3	語り継ぐ、歌い継ぐ ~歌人「金田千鶴」の生きた道~	演劇集団「演劇宿」	泰阜村出身の女流歌人金田千鶴を泰阜村を中心とした南信州地域で語り継いでいくため、次の事業を実施する。(3年目) ・劇作家のふじたあさや氏の指導の下、泰阜村の住民団体や子供達と稽古を行い、住民の演劇への参画を図る。 ・金田千鶴の生涯を描いた演劇を泰阜村の子供達向けに再構成し、地域の子供や住民を対象に公演 ・子供達が事前に授業で金田千鶴や劇中短歌について学ぶ ・泰阜村内の催しや音楽会で劇中短歌を歌い継げる形に作・編曲 ①脚本・演出料、編曲費、講師交通費・謝礼、ポスター・チラシ費、消耗品費	1,095	861	金田千鶴が作り上げてきたものを後世に伝えるため、公演等を通じ、子どもたちをはじめ地域内外の人々に金田千鶴を広めることができた。 今後も講演会等の活動を継続しながら、特に若い世代が金田千鶴に触れる機会をさらに増やすことで、次世代への承継を図っていただきたい。
4	繋がり創出による南信州民俗芸能継承推進事業	南信州民俗芸能継承推進協議会	地域企業・住民が連携して地域の民俗芸能を継承するため、次の事業を実施 ・南信州民俗芸能ファンクラブでのメルマガ・SNS発信 ・南信州民俗芸能パートナー企業の協賛事業として、カレンダー制作や南信州民俗芸能フェスティバルを開催 ・丘のまちフェスティバル、伊那民俗研究集会に参加し、民俗芸能の周知を図る ・パートナー企業や市町村教育委員会向けの民俗芸能継承支援に係る勉強会を開催 ・南信州の民俗芸能をPRするとともに、誇りを持ってもらうためのテレビ番組を放映 ①カレンダー制作・配布費、チラシ・ポスター・広報費、講師・アドバイザー謝礼、啓発用品費(パンフレット・ステッカー)、HP運営費	3,437	2,466	メルマガの発行や各イベントの開催等を実施し、SNSのフォロワーが増える等民俗芸能に関心を寄せる地域住民やつながり人口の増加につながった。 また、多様な上演の場を創出することで担い手の誇りを育み、継承意識の醸成にもつながった。 さらにパートナー企業や市町村教育委員会へのアプローチを強化し、より地域が一体となって民俗芸能の継承に向けた動きがなされることを期待する。
5	地域資源を活用する持続可能な観光の実現に向けた基盤づくり	阿智村全村博物館協会	観光客と地域住民がお互いに配慮する「持続可能な観光」として阿智村全体で取り組む「全村博物館構想」への住民理解を促すため、次の事業を実施 ・様々な地域資源やその活用に取り組む人々を住民に分かりやすく動画で紹介し、地域全体の意識向上を図る。 ・阿智村に多数ある石造物を地域の歴史・言い伝えと照らし合わせて地域の変遷を学ぶとともに、今後の観光コンテンツとして活用するための冊子を制作 ・各地域の歴史や民俗を改めて地域資源として住民自身が発見するため、地域紹介パンフレットを作成 ①石造物撮影料・冊子印刷製本費、学習会謝礼、動画制作・編集費、地域パンフレット印刷製本費	1,348	1,078	予定していた事業の一部が実行できず、学習会の参加人数も計画時を下回ったが、これまで注目されてこなかった石造物の調査を行い、その価値を地域住民に伝えるための活動を実施し、地域住民の理解を深めることにつながった。 作成したパンフレット等を活用し、地域住民等に向けた発信を強化することで、団体の活動や身近にある地域資源の認知度向上につながり、持続可能な観光の実現に向けたさらなる活動が期待できる。
6	中馬街道プロジェクト	中馬街道連絡会	江戸時代、南信と三河・尾張への物流運搬の幹線道路であった「中馬街道」を現代に蘇らせ、地域資源として地域づくりや観光に役立てるため、次の事業を実施する。 ・中馬街道を案内する標柱・プレートを、中馬街道沿いの交差点等に設置 ・中馬街道の歴史や街道沿いの石造物を阿智・平谷・根羽村の地域住民が理解する学習会を開催 ・地元住民をガイドとして養成するため、阿智・平谷・根羽村で研修会を開催 ・中馬街道が分かる案内地図・パンフレットを作成・配布 ①標柱代、看板代、印刷代、ガイド養成料金	1,945	1,538	標柱の設置や学習会の開催を通じ、中馬街道の理解を住民に広めることができた。 今後も学習会や景観整備等の活動を継続しながら、実際に地域住民自らがその情報や魅力を発信していけるような取り組みを期待したい。

事業番号	事業名 (継続事業 の年数)	団体名 (所在地)	事業実績 (主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業)	事業費		講評
				総事業費	交付額	
7	源氏物語常木プロジェクト	源氏物語常木プロジェクト	源氏物語に登場する「常木」が園原地区にあること、それに関する歴史遺産が多数あることを地域住民に再認識してもらい、2024年NHK大河ドラマ「光る君へ」放送に向けて住民機運を高めるために、次の事業を実施 ・住民が源氏物語と園原地区との関わりを学ぶ学習会を開催 ・源氏物語第二帖「常木」を演劇化して住民向けに公演するとともに、全国各地でも上演し、園原・常木の知名度向上を図る ・源氏物語を学術的視点から学ぶ大河ドラマ放映記念講演会を開催 ・「常木」が何かを開設し、関係する地域資源を紹介するパンフレットを作成し、村内施設・屋神温泉郷に配布 ・住民が常木をガイドできるよう、住民ガイド養成を実施 ①講演会講師旅費・謝礼、演劇脚本・出演・舞台道具等費用、パンフレットデザイン費・印刷製本費	2,935	1,139	学習会や公演等を通じ、地元住民等の多くの方に常木や源氏物語等についての興味・関心をもってもらうことで、地域で常木を盛り上げる機運を高めることができた。 地域内外での知名度を高めながら、観光事業者や施設等と連携を図ることでより魅力的なコンテンツの創出が期待される、
8	うるぎ国際センター 英語デイキャンプ自然体験	売木村	売木村国際センターで、地域内外の子供たちが自然体験活動を楽しみながら英語を学べるデイキャンプ事業を実施(2年目) ・デイキャンプでは、英語を使いながら村内や野山を散策し、動植物に触れて自然体験を行うほか、竹を使った料理体験、農業体験を行う。 ・参加者同士で外国語のボードゲームや工作等を行い、楽しみながら英語を学ぶ ・休日には国際センターを開放し、村内の子供達も交えて英語体験を実施 ①予約HP改修費、コンサルティング委託料、体験講師謝礼、パンフレット制作費	775	620	子どもたちの英語力と郷土愛を育む事業であり、様々な自然体験活動を計画していたが、令和5年度は一部体験において事業計画よりも開催回数が減少した。 今後は、プログラムの内容や種類について充実を図りながら、売木村の魅力を活かした事業展開をしていただきたい。
9	水害・土砂災害から生命を守る	飯田市	災害に対する意識付け、避難行動を促すための方策、地域協働による全員避難の方法(要配慮者への支援等)を住民と一緒に検討する事業を実施 ・ハザードマップの作成 ・ダンボールジオラマの活用 ・避難のあり方検討会の実施 ①ハザードマップ制作委託料・印刷料、ダンボールジオラマ製作委託料、検討会開催費用	1,490	1,117	大災害への警戒が必要とされているこの地域において、危険箇所や避難所等の共有や災害時の行動や避難の方法の再確認を行うことができた。 また小学生にはダンボールジオラマによる体験を提供し、楽しみながら学ぶことで防災意識の向上につながった。 本事業を経て、住民が家庭や地区において継続的・自主的に検討や学習等を行えるような取り組みを期待したい。
10	竹林活用プロジェクト	竹林活用プロジェクト CHIKURIN	放置竹林の整備・景観維持を図りながら竹をを活用して地域の繋がりを深める事業を実施 ・地域住民に対し、竹林整備・メンマに関する講演会を開催 ・地域住民と幼竹の収穫・茹で・乾燥を行い、メンマを製作 ・地域の親子に竹細工・竹遊びを教え、竹に関心を持ってもらうイベントを開催 ・地域の放置竹林を伐採するとともに、竹チップ・竹パウダーを生産 ①講師謝礼、薪代、施設使用料、車両賃借料、桃太郎旗購入費、チラシ作成・印刷費、パンフレット作成費、くど・大型鍋購入費、作業用工具購入費 ②竹破砕機	739	560	竹林整備や竹の有効活用について様々な企画を地域住民を巻き込むように実施し、竹林整備や竹についての関心を高めた。 今後も地域内での課題の共有に努めていたいただきながら、竹の有効活用による収益化(事業の自走に向けた取り組み)を期待したい。
11	プラスチックスマート運動の推進	南信州プラスチックスマート推進協議会	一人ひとりが海洋プラスチックごみのことを認識し、自然界にプラスチックを可能な限り出させない意識を持って行動するよう啓発事業を実施(3年目) ・プラスチックスマートに係る講演会の開催 ・プラスチックスマート週間(月間)創設 ・マイクロプラスチック啓発事業 ①啓発物品、講師謝礼、広告費、のぼり旗、木製容器、パネル代、啓発動画制作費	425	339	令和5年度は天龍川流域団体と連携するなど、より広く普及啓発が行えるよう活動を行った。 今後も継続した活動とともに、学校や自治会等多くの団体との連携を図りながら、幅広い世代にプラスチックスマートの意識啓発をしていただきたい。
12	南信州環境メッセ2023の開催	南信州環境メッセ2023実行委員会	再生エネルギーの普及や循環型社会構築の機運を高め、民間企業、団体・住民や行政など多様な主体が協働して環境先進地域づくりを行うための事業を実施(3年目) ・SDGs・ゼロカーボン活動推進見本市「南信州環境メッセ」の開催 ①メッセ開催委託費、会場使用料	5,351	4,169	これまでに引続き、企業や学生を含めた様々な主体の参画により事業の実施ができた。 今後はSNSの活用や団体との協力による広報活動の強化により、入場者数や再生回数を増加できるような取り組みを期待したい。

事業番号	事業名 (継続事業 の年数)	団体名 (所在地)	事業実績 (主な用途 ①: ソフト事業 ②: ハード事業)	事業費		講評
				総事業費	交付額	
13	南信州地産地消推進事業	南信州地産地消推進協議会	<p>地元産の畜産物や伝統野菜、旬の食材にこだわった食を地域住民や旅行客に提供するためのプラットフォームを整備し、地産地消を推進するための事業を実施(3年目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域食材を活用したレシピ開発等に繋げるため、食のアカデミーとしてセミナーを開催 ・地域食材を活用したプロ・アマ料理人による料理コンテストを開催し、レシピブックを作成・配布 ・実需者が生産者の生産現場を現地視察 ・実需者に地域食材の仕入れ体制やメニュー開発に関する研修会を開催するとともに、モデル施設を実際にコンサルティング ・実需者と生産者をマッチングし、地域食材の需給安定化を図る ・「まちの八百屋システム」の運用・登録者の拡大を図る ・飲食店等の地産地消のレベルを定める認定基準を策定し、飲食店等と消費者の地産地消意識を高める ・JAのDMにチラシの折込や産地ツアーの案内を同封。また、情報発信に係る関係者講習会を開催するとともに、共通ハッシュタグを募集・策定し、地域一丸となった情報発信を実施 ・共通ハッシュタグをデザインに取り入れた実需者向けコースターの制作・配布 ・地産地消のPR映像を制作し、直販所・スーパー・飲食店等で放送し、地産地消の意識情勢を図る <p>①会場使用費、講師・コンサル謝礼、講師旅費、チラシ印刷費、消耗品費、広告掲載費、コースター製作費、PR動画制作費</p>	2,451	1,752	<p>継続3年目となる今年度は、まちの八百屋システムを運用しながら地産地消を進めるための様々な企画を計画し、実施することができた。</p> <p>まちの八百屋システムのさらなる普及に向け、団体からの働きかけやSNSを通じた広報活動、また自治体と連携した活動の拡大にも取り組んでいただきたい。</p>
15	南信州フォレストパーク構想事業(地域特産品販売促進事業)	下伊那郡西部3か村地域振興協議会	<p>国道19号線沿線に位置する阿智村、根羽村、平谷村の三村の住民が連携してイベントを準備・開催し、村の枠を超えた繋がりを築くためのイベントを開催(2年目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3村からイベント出店農家を集め、交流・イベント準備を実施 ・3村と出店農家を紹介する冊子を発行し、各村に配布 ・特産品販売イベント「森の収穫祭」を開催 <p>①イベント設営費、木育キャラバン、企画ディレクション費、紹介冊子製作費、広告宣伝費、紙袋・鮮度保持袋製作費、イベント参加者保険料</p>	1,680	1,343	<p>森の収穫祭を開催し多くの来場があった。また農家同士の交流会等も実施し、広域的なコミュニティの構築につながった。</p> <p>広報活動を強化等により、さらに多くの出店者及び参加者を獲得する等、収益等で自走して継続的に開催できる仕組み作りを期待する。</p>
16	向日葵の生産及びこれを利用した観光事業	平谷村観光協会	<p>平谷の観光資源の一つである「ひまわり」を地域全体でPRするため、次の事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平谷村観光協会内にひまわりに関係する地域住民・団体を集めた「平谷ひまわり実行委員会」を発足 ・種蒔き、向日葵祭り、搾油、ひまわり油の販売を連携して実施 ・来年度に向けた反省会を行い、次年度に繋げる <p>①ロゴマーク制作費、景品代、のぼり旗、向日葵種代、肥料代、農薬代、マルチ代、耕起・マルチング作業、搾油代、瓶代、ポスター・チラシ作成費</p> <p>②フォトコンテスト板</p>	940	744	<p>向日葵祭りにおけるフォトコンテストの応募数が多く、募集媒体だったInstagramのフォロワーも増加したことで、平谷村の認知度向上に寄与した。</p> <p>向日葵油の販売数が予定よりも少なかったが、搾油量は予定より多かった。</p> <p>道の駅と連携した企画等により向日葵を軸とした地域振興が図られること、また地元住民をさらに巻き込み、地域一丸となって向日葵による活性化が図られることを期待する。</p>
17	南アルプス最南部山岳遭難防止対策事業	一般社団法人南信州山岳文化伝統の会	<p>全国的にも先進的で安全な山岳高原観光地域づくりに取り組み、来訪者の拡大を図ることで山岳高原観光産業の振興を図る事業を実施(2年目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登山道入口に登山相談所を設置し、相談員を配置するとともに研修会を実施 ・登山届Web申請システム「コンパス」を普及させるため、登山相談所や遠山郷の宿泊施設で配布 ・登山道の危険箇所等を調査し、その情報をまとめパネル板を相談所に掲示 <p>①全山調査謝礼、相談員研修謝礼、パネル代</p> <p>②コンテナハウス</p>	1,269	808	<p>登山相談所の設置及び相談員の配置や研修会の実施、各関係者との連絡体制の整備、登山者への情報提供の強化に加え、ICT技術を活用した登山届システムや遭難者探知システム等の導入といった、画期的・多面的なアプローチにより、登山者の安全意識向上と遭難防止に効果があった。</p>
18	竹林整備の促進と竹パウダーの活用検討事業	阿智村	<p>地域住民・団体に竹破碎機の貸出を行って竹林整備に取り組んでもらうとともに、伐採した竹をパウダー化して有効活用するための事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹破碎機の適切な利用方法を学んでもらうとともに、竹の有効活用に関心を持ってもらうための講習会を開催 ・整備した竹林は地域の「里山整備利用協議会」等が継続的に維持管理を実施 ・NPO法人あち森と連携し、破碎した竹をパウダー化し、竹炭と合わせた竹炭パウダーを生産 ・竹炭パウダーはハナモモの樹勢回復や農業での利活用を行う <p>②竹破碎機</p>	2,802	2,101	<p>天候不良や破碎機の納品時期に遅れが生じてしまい、予定していた住民向けの講習会が遅れ、また破碎機の貸出しを行うところまでは至らなかった。</p> <p>竹パウダーの利用促進に向け、地域住民をより多く巻き込んだ活動を行っていただきたい。</p>
19	竹林マップ作成と竹林整備及び利活用事業	喬木村	<p>村内の放置竹林を可視化し、地域による整備・利活用を支援するための事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内の竹林マップを作成し、どこにどんな竹が生育しているか把握するとともに、村内8地域に配布 ・地域住民に竹林の整備・利活用を学んでもらうため、専門家による竹林整備及びメンマづくり講習会を開催 ・竹林整備に前向きな地域を選定した後、村・地域住民・委託業者(NPO法人いなだに竹links)が連携し、住民協働による竹林整備モデル事業を実施 <p>①竹林マップ作製委託料、竹林整備・メンマづくり講習会講師謝礼、モデル竹林整備委託料</p>	8,474	5,000	<p>事業を通じ竹林分布状況の可視化や住民の竹林整備への関心を高めることにつながった。</p> <p>今後は作成したマップや整備したモデル竹林を活用し、竹林整備方針の策定や竹林整備を行う人材育成等に取り組んでいただくことで、住民主体での竹林の利活用が進むことが期待される。</p>

事業番号	事業名 (継続事業 の年数)	団体名 (所在地)	事業実績 (主な用途 ①: ソフト事業 ②: ハード事業)	事業費		講評
				総事業費	交付額	
20	『南信州シードル』プラットフォーム構築事業(第一期)	特定非営利活動法人国際りんご・シードル振興会	南信州地域におけるシードルに関するマーケティングやプロモーション等の活動を一元的に集約したプラットフォームの構築を図るため、次の事業を実施 ・地域のシードル情報発信やマーケティングを検討するブランディング検討会議を開催 ・プラットフォーム構築に必要な知識を得るため、外部講師によるセミナーを開催 ・プラットフォーム構築の実証の場として、セプテンバーシードルフェス(南信州シードルコレクション・南信州シードルBYO)を開催するとともに、その成果をブランディング検討会議にフィードバック ①講師謝礼・交通宿泊費、会場費、WEB会議用備品、シードルフェス運用支援委託費、電子チケット委託費	2,369	1,819	南信州シードルの価値を高め、地域ブランドとして確立させるための検討会議を実施した。また、認知度を向上させ、地域外からの来訪機会を創出するためにイベントを開催した。 この事業によりプロダクトの要件に関する合意がなされ、また、セミナーには50名以上の参加があった。 本計画のイベントでは出店者の確保に課題があったため、より多くの地域の事業者・農家等を巻き込めるようなイベントが企画され、南信州シードルの情報発信につながることを期待する。
21	南信州地域資源活用商品開発オープンイノベーションプラットフォーム構築事業	公益財団法人南信州・飯田産業センター	地域資源を地域自ら活用し、付加価値の高い地域産品・コンテンツを創出するため、次の事業を実施(2年目) ・地域資源を積極的に開示するオープンイノベーションの考え方を広め、地域資源活用の機運を高めるシンポジウムを開催 ・地域に顧客目線を身に付けてもらうためのマーケティングマネジメント伴走支援を実施 ・地域資源の活用に関心がある集落・地域・事業者等を引き合わせる交流展示会を開催 ・地域がマーケティング、共同開発、契約・知的財産管理等を学ぶセミナーを開催 ・共同プロジェクトの創出促進を図るため、地域資源交流サロンを開催 ①チラシ印刷費、YouTube広告費、チラシ・パンフレット印刷費、講師謝礼・旅費、郵送費	811	638	当初計画の一部を実行できなかったが、地域資源を活用するためにシンポジウムや事業者支援、マッチングイベント等幅広い事業を実施した。 SNS活用等の広報活動の強化や情報へのアクセスをより気軽にする仕組みづくり等、多くの事業者や住民が参加できる事業を構築し、実際に新たな地域独自のコンテンツが創出されることを期待したい。
22	つながり人口創出に向けた南信州広域連携事業	南信州広域連合	つながり人口創出事業に官民一体で取り組み、圏域全体の地域活性化や移住定住の促進を図るため、次の事業を実施 ・域内のつながり人口事業の現状把握・整理分析 ・民間団体と連携した南信州PRイベントの開催と現地体験・交流ツアーの開催 ・つながり人口創出に向けた学習会(研修会)の実施 ・情報発信の強化とフォローアップ体制の構築 ・移住セミナーの開催 ①謝礼・旅費、広告宣伝費、委託料、会場使用料	1,712	1,369	管内市町村の移住担当者向けにつながり人口創出のための取り組み事例が学べるツアーを行う等、地域全体のつながり人口に関する知識のボトムアップが期待できる内容であった。また、首都圏で行ったイベントでは参加者が実際に南信州を訪れる等、効果を生み出している。 イベントの効果を検証し、さらなる参加者の獲得やつながり人口の創出が可能となるイベントの実施を期待する。
23	伊那谷ブランドを南信州から発信!首都圏とのつながり創出事業(仮)	りゅうのまーけっと実行委員会	南信州と首都圏を行き来するイベントを開催し、地域住民と首都圏とのつながりを創出する事業を実施 ・南信州地域の伝統文化や農産物、発酵食品をよく知る地域住民と、地方での生活に関心を持つ首都圏のアーティストやデザイナーなどのクリエイティブ人材を募集 ・首都圏のクリエイティブ人材に南信州に来てもらい、南信州の生活や文化を体感できる交流イベントを開催(第1弾) ・南信州の住民が東京都下北沢で南信州の生活・文化をPRする交流イベントを開催(第2弾) ・南信州の住民と首都圏のクリエイティブ人材がコラボし、関係性を構築するイベントを開催(第3弾) ・イベントでは、南信州をモチーフにしたガチャガチャや移住相談ブースも設置 ・イベントを動画で記録し、第1弾～第3弾の期間中のPR材料として使うほか、最後にまとめた動画を皆で鑑賞するとともに、次年度の取組を検討する反省会を実施 ①会場使用料、ムービー作成費用、イベント予約HP制作費、ポスターデザイン料、講師謝礼、ガチャデザイン・制作費、ブーステント費用、イベント委託費 ②南信州ガチャ木枠	4,751	3,785	イベントでは若者に人気のある首都圏のクリエイターを起用し、南信州の文化と掛け合わせることで、目標を上回る参加者を獲得できている。また、南信州と首都圏の両方でイベントを行うことで、興味を持った方が南信州へ実際に訪れるきっかけとなった。また、多くの大学生との取り組みも生まれ、今後の連携も期待される。 本事業の振り返りを活かし、今後も定期的に同様のイベントを開催されることに期待する。
24	飯田線で行く伊那谷の旅	JR飯田線活性化期成同盟会	利用促進や駅を活用したまちづくりを推進し、地域の貴重な公共交通である飯田線存続を図るため、次の事業を実施 ・飯田線に乗りしてもらおうことでマイカーでは味わうことができない電車の楽しさを知ってもらい、利用促進や必要性・継続に対する意識醸成を促す ・飯田駅前の伊原五郎兵衛記念碑の見学、解説 ・列車内トークショーにて、資料やパネル等を活用し、飯田線の歴史や伊那谷の自然、農産物、産業等を学ぶ学習会を開催 ・伊那谷みはらしファームにて環境に配慮した手作り草木染め・箸づくり体験を実施 ・南箕輪大芝高原にて、住民や地域企業の共同制作イベント(イルミネーション)の見学 ①列車借上料、司会者謝礼、チラシ作成費、広告掲載費用、消耗品・郵送費	970	588	JR飯田線は将来的にリニア中央新幹線長野県駅へのアクセス機能を果たすことが期待されているが、人口減少等の影響で利用者の減少が続いている。そうした状況を打破するため、地域資源を再認識する観光ツアーを実施した。参加者アンケートでは、多くの方から今後も飯田線を利用したいとの回答を得ることができた。 一方、電車を使ったお出かけについての項目では目標を下回る結果となった。普段電車に乗らない層へのアプローチを強化し、電車でのお出かけの魅力をより発信できる取り組みを期待したい。

事業番号	事業名 (継続事業の年数)	団体名 (所在地)	事業実績 (主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業)	事業費		講評
				総事業費	交付額	
25	丘の上カップリング推進事業	飯田商工会議所青年部	結婚を希望する男女をカップリングし、結婚に繋げるため、次の事業を実施(2年目) ・恋愛セミナーを開催し、参加者に自分磨きに取り組んでもらう ・愛郷心を育むため、「結」をテーマに伝統産業である水引を使ったワークショップを開催 ・地域外から飯田市に関心を持つ独身者にも参加してもらい、移住コンシェルジュの杉山氏による移住セミナーを開催するとともに、飯田市への移住にも繋げる ①セミナー講演費、ワークショップ材料・講師謝礼、ポスター・チラシ製作費、広告掲載費、WEB申込システム構築	646	478	婚活パーティーを開催し、目標値には達しなかったものの複数組のカップルが誕生するなどの効果があった。 一方、男女の参加者の比率の偏りや参加人数が少ないイベントがある等の課題も見えているため、イベント内容や募集方法を改善しながらより効果的な事業を検討していただきたい。
26	都市との連携による飯田下伊那(南信州)地域の活性化に資する事業(第2年次)	特定非営利活動法人 南信州山都共同社中	中山間地域の活性化のため、地域住民・農家・市町村・地域企業と連携し、都市部と中山間地域の相互補完事業を次のとおり実施(2年目) ・意欲のある農家が中山間地域で高付加価値な農産物の生産に取り組み、企業・飲食店と連携して都市部への販売を実施(野菜セット・リゾートセットの開発・販売支援など) ・下條村の宝ノ戸地区での企業ダーチャ(地域と都市部企業の継続的な交流事業)を根付かせるため、企業ダーチャ先進地(北斗市)の視察研修や宝ノ戸地区での企業ダーチャの導入支援 ・ダーチャ有望企業への宝ノ戸地区プレゼンテーション支援 ①コンサル委託費・交通費・旅費・印刷費、視察研修費・交通費、展示会出展料・講師謝礼・交通費	3,295	2,295	高付加価値な農作物の生産と都市部への販売による農業の再構築や企業版ダーチャの試行に取り組んだ。ダーチャについては当初予定していた企業との取り組みは困難だったため、予定を変更し都市部の自治会との間で取り組みが進んだ。 今後は企業・飲食店と連携した農作物のさらなる販路拡大を期待したい。また、ダーチャの導入支援を加速し、地域の住民を巻き込んだ地域と都市部との継続的な交流に取り組んでいただきたい。
27	村民とつながり人口参加型による村の魅力を伝えるPR映像制作事業	売木村	専門家の指導の下、村民とつながり人口が協働して売木村の魅力PRする映像制作に取り組む事業を実施 ・村で生まれ育った人、移住した人、村とつながっている人それぞれの視点で村の魅力を語り合い、村の魅力を再認識するとともに動画を制作 ・村民等の「見せるための撮影スキル」を向上させるため、ワークショップを開催 ・動画は2本製作し、村の移住定住サイトやSNSでの掲載、東京での売木村イベントで活用 ①PR映像製作費、会場使用料	1,508	1,206	村民が持ち寄った映像を専門家が編集することで、よりリアルな売木村の魅力を完成度の高い動画で発信することができた。 また、ワークショップ等を通じて地域内で新たな交流が生まれ、住民同士の結びつきの強化や地域の魅力の再確認につながった。 動画の再生回数を伸ばすための取り組みやイベントでの活用を強化し、売木村に足を運んでもらうための取り組みにつなげていただきたい。
28	「阿島の大傘」補修と阿島傘ライトアップ展示事業	喬木村	巨大阿島傘を村民みんなで作り上げるとともに、観光資源として村内外へ発信する事業を実施 ・村民に阿島傘への愛着を持ってもらうため、阿島傘に関係する住民団体を中心に大傘修復を行うとともに、村民に手形を押しってもらう。 ・阿島傘の幻想的なライトアップ展示を行い、村内外の阿島傘の認知度向上を図る ①大傘補修費用、補修講師謝礼、ライトアップ展示費用 ②大傘補修足場設置、発電機	2,077	1,513	村の伝統文化である阿島傘の修復作業を多くの住民と協働して実施し、村内外において認知度を高めることができた。 今後は、村内外の団体等との連携を進めながら、大傘の積極的な活用やライトアップ展示等により、阿島傘の発信に努めていただき、阿島傘により多くの方が関心を集めることを期待する。
29	自分の身体に合わせたスポーツ体験会	まつかわ森林セラピーの会	健康診断の結果の相談会とスポーツ体験会を実施し、およびの森周辺で行える自分に合ったスポーツを見つけ、利用者同士が繋がれるコミュニティを作っていく。健康的な体作りができる町として、つながり人口の促進をはかっていく。 ・スポーツ体験会(ヨガ・Eバイク・プール筋トレ教室・森林ウォーク)を健康診断の結果から対象者に合ったものを実施してもらう。スタンプカードを発行し、その後の継続参加にもつなげていく。 ①スポーツ体験講師謝礼、健康相談講師謝礼、チラシ・パンフレット、雑誌掲載費用	532	425	実施したスポーツの種類によっては目標を上回る参加者があり、また、健康相談も好評であったことから、一定の事業効果があったと評価できる。 一方で、利用者同士のコミュニティ形成や地域のブランディングという観点ではまだ効果が表れていないため、参加者や地域の方のニーズを把握し、それに対応したスポーツ等の実施がなされ、より多くの参加者の獲得やコミュニティの形成につながることを期待する。
30	R5年度「ひさかた和紙」地域振興事業	ひさかた和紙の会	江戸時代から下久堅地区で生産されている「ひさかた和紙」を継承する人材育成及び地域資源として存続させていくための取組を行う。 ・原料となるコウゾの収穫・剥離・薪割り作業の体験 ・コウゾ皮たくり作業 ・和紙手漉き体験、和紙はがき製作体験 ・和紙講座の開催 ②蒸し釜場改修費用、薪割り機購入費用	3,322	2,491	ひさかた和紙の原材料を確保するため老朽化していた釜場小屋を改修し、併せて、小学生等への紙漉き体験や他団体との技術交流を実施した。 その結果、紙漉き体験の延べ人数が約300人となるなど、目標を大幅に上回る参加があった。また、ひさかた和紙の体験活動を通じて、地域の伝統技術に触れるとともに地域の絆を深めた。 今後は、会員らと協力して地域内外へ和紙の価値を発信し、和紙の販売等により活動資金を調達する仕組みを検討していただきたい。

事業番号	事業名 (継続事業 の年数)	団体名 (所在地)	事業実績 (主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業)	事業費		講評
				総事業費	交付額	
31	地域産木材等 を利用した図書 館什器類製作 事業	松川町	「住民の自立分散型社会」=MMM(Matsuwa Makes Mylife)プロジェクトの実現をめざし、その一つである旧松川東小学校に設置されたショップポットの利用促進を目指す。町で設置したこの機器を使い、住民の誰もが利用する図書館を利用し、そこに配置する什器を住民が協働して作成することで広報していく。また松川町を中心とした地域産木材等を利用することで、地域資源の魅力を住民に知ってもらおう。 ・町内業者のデザインによる書棚等をショップポットにより切れ目を入れ、それを住民が参加するワークショップ形式で、切り抜き・研磨・組み立て・設置を行う。 ①ワークショップ講師謝礼 ②什器製作の材料・データ作成料	1,096	822	住民参加型ワークショップ「わたしの図書館をつくる」を通じて、町内産木材の可能性を示すとともに、山間地域に設置した木材加工機器の周知を行った。参加者数は当初目標を上回り、町内外からの関心の高さが伺える。 本事業をひとつのきっかけとして、ショップポットが住民主体で活用され、地域産材等の消費の拡大につながることを期待する。
32	「知るや？井月さん」南信州プロジェクトー漂泊俳人井月の下伊那巡りー	高森文化ユニット内「井上井月顕彰会下伊那支部」	R5年度は井上井月生誕200年の記念として、句碑の建立及び下伊那での井月の俳句や当時の暮らしに触れた分かりやすい冊子を刊行して、広域観光にもつながる地域の文化意識を高め啓もうしていく。 ・子ども向け「下伊那の井月さん」絵本風冊子(普及版)を刊行する。 ・冊子の活用と短文「俳句・短歌・詩」学習講座の実施。 ・高森町の井月所縁の地に句碑を建立する。 ・町内文芸碑巡り ①冊子製作費、チラシ印刷代、出演謝礼 ②句碑建立費用	1,533	1,164	地域の文化意識を向上させるため、井上井月ゆかりの場所へ句碑を建立し、高森町公民館と協力して、町内の句碑を巡るツアーを開催した。 また、昨年度刊行した井月に関する冊子を小学校高学年向けにリメイクし、小学校や町内図書館へ配布した。これらの事業により、住民の表現文化への関心を高めることができた。 今後は上伊那地域との連携を図りツアーを実施するなど、観光事業の発展を期待したい。
33	“泰阜流”子ども子育てコミュニティ活性化事業	泰阜村	家庭・保育所・小中学校・地域が一緒になって、泰阜村で子どもが育つことの魅力について認識できる機会や子どもたちが泰阜村の中で生き生き育てる環境をつくり、地域みんなで子どもたちを育てていく機運を高める。 ・子どもの森(仮名)づくり活動 ・泰阜村子ども子育て支援講演会 ・映画「夢みる小学校」鑑賞会 ①尾木ママ講演会、研修会講師謝礼 ②子どもの森整備費用	4,037	3,044	子どもの森の整備や研修会を通じ自然の中での遊びの重要性や泰阜村の魅力の発信につながった。 また、知名度の高い講師を招いて講演会を行い、自然の中での子育てや地域での子育て等に対する意識がより高まった。 地域内での理解を高めるため、より多くの保護者の参加を得られるような内容・工夫を盛り込んだ取り組みをしていただきたい。
34	それぞれにあわせた災害への備えを考えよう	学校法人高松学園飯田短期大学	令和5年度は今までの実績と経験を踏まえ、特色のある事業として災害弱者となる要配慮者の方の防災対策を目的とする。自助と共助の大切さを知り、地域防災の向上を目指す。 ・それぞれに合った備蓄食品を考える+避難所の生活スペースを作ってみよう ・要配慮者の避難+避難所の生活スペースを作ってみよう ・緊急時の対応(応急手当) ①防災食体験物品、応急手当用品、簡易車いす、ストレッチャー、広告費 ②災害対応自動ラップ式トイレ、自走用車いす	2,206	1,620	防災意識の高揚や自助・共助の重要性を認識することにより、地域防災力の向上させることを目的とし、避難所体験や災害時の調理体験、災害時のトイレ介助等の講座を実施した。アンケート結果では、参加者から高い満足度の回答をもらうことができた。 今後は、これまでの取り組みで得たノウハウを地域に広げるため、自治体や自治会、学校等と連携した取り組みが行われることを期待したい。
35	みんなで取り組もう！「ゼロカーボンシティいいだ」推進事業	飯田脱炭素社会推進協議会	環境に関するイベントに参加しながら、新しい生活様式への転換を促す機器の展示等による知識の提供や、「エコライフの普及啓発」を通して気候変動を緩和させるとともに気候変動に適応したレジリエンスで脱炭素な社会を推進していく。 ・みんなで取り組もう！「ゼロカーボンシティいいだ」学習会 ・知ろう！「ゼロカーボンシティいいだ」啓発事業 ①カードゲーム委託料、消耗品(プラバン)、ノベルティ購入費用	443	354	若年層をターゲットにした学習会の実施やイベントへの出展を実施し、多くの参加者にゼロカーボンに関する普及啓発を行った。イベント出展においては目標よりも多くの参加者を集められた一方、学習会では目標に届かない結果となった。 今後、若年層の参加を促進するために、学習会等について内容や広報活動、団体・関係機関との連携等が充実していくことを期待したい。
36	楽しみながら環境について考える、地域イベント参加型企画の確立	一般社団法人恩返しIILA	市内の各種大規模イベントに参加しながら、海洋プラスチックゴミや地球温暖化などに関する情報発信を行う。イベント内で使用する資材は、極力環境に配慮した製品を使用し、それを参加者が利用する機会をつくることで、エンカル消費の意識啓発にも取り組む。 ・環境メッセ2023、子育て応援フェスIKUIKUへの出展 ・その他、要請のあったイベントでの出展 ・河川清掃イベント ①移動水族館委託料、イベント物品購入費、出展料 ②エアロバイク型人工発電機	1,037	796	天候不良等の要因によりイベント等の参加者数の目標達成には至らなかったが、企画されたイベントは幅広い世代の興味を引く内容が多く、参加者へのアンケートではイベント参加により参加者の電気節約やエンカル消費に対する意識向上につながった。 今後も効果的なイベント内容を検討し、またより多くのイベントに出展するなど多くの方に普及啓発が図れるような取り組みを期待する。
37	子育ての町松川町 花と憩いの場の空間づくり	松川町	住民の中でむらやま公園をより居心地のよいものとするための活動が起こり、花いっぱい活動団体をはじめ住民からは、雑草が茂っている場所に花を植えたり、憩いの場となるように整備を行ったりしたいという動きがある。町としても住民の誰もが、今の暮らしやこれからの人生を自ら描く「自立分散型社会」=MMM(Matsukawa Makes Mylife)プロジェクトをすすめていることから、この活動の後押しを行い、協働してむらやま公園の整備を行う。 ・花いっぱい、憩いの場作り事業 ①苗代、肥料代、プランター代 ②パーゴラ設置費用	3,377	2,535	むらやま公園の魅力向上のため、「花と憩いの空間づくり」をテーマに、景観整備活動を実施した。池の整備や園児による花の植栽、さらにパーゴラ設置を行い、子育て世帯を中心に多くの方が快適に過ごせる空間となった。 今後は、地域住民や団体等と協働で綺麗な公園を維持していくような取り組みや、公園でのイベント等魅力発信の取り組みを期待したい。

事業番号	事業名 (継続事業 の年数)	団体名 (所在地)	事業実績 (主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業)	事業費		講評
				総事業費	交付額	
38	アテビ平小鳥の森環境・生物多様性保全事業	売木村	売木村が主体となりアテビ平小鳥の森の重要性、環境や生物多様性の保全意識を醸成する。また、売木村で包括連携協定を締結している株式会社、村内の一般社団法人等で設立した「アテビ平小鳥の森環境・生物多様性保全協議会」と連携する。保全活動が有機的につながり関係人口の増加や地域振興に寄与する。 ・ガイドウォーク ・看板の設置、案内板の追加 ①案内板製作費 ②看板製作費	827	646	ガイドウォークには県外からの参加者もあり、参加者数が目標を上回った。また、参加者アンケートでも満足度が100%であった。 今後は、さらに住民主体により公園の環境保全の活動や魅力の発信が行われるような取り組みを期待したい。
39	昼神温泉出湯50周年記念事業	昼神温泉旅館青年部	令和5年11月26日いい風呂の日に、阿智村村民と観光業従事者2,000人で昼神温泉の出湯50周年を祝うイベントとして「昼神温泉出湯50周年記念阿智村民Day」を開催する。また、50周年を記念して「狂言木賊」を復刻し、100周年に向けて新たな地域の伝統芸能として作り上げる事業を開始する。 ・村民によるタイムカプセル ・地域ゆかりの「狂言木賊」を新たな伝統芸能として復刻し、地域住民と観光業者が協働して上演 ・全旅館が村民を対象に施設を無料で開放 ・地域団体による演奏や活動披露 ・清内路の手作り花火の披露 ①花火謝礼、印刷費、機材費、出演者謝礼、映像制作費 ②タイムカプセル購入	3,471	2,721	地元住民に昼神温泉を身近に感じてもらうために、観光事業者と地域住民が協力し、出湯50周年を祝うイベントを開催した。イベントでは清内路の手作り花火の披露や宿泊体験、タイムカプセルの制作等を実施した。また、地域の新たな伝統となることを目指した芸能を制作し、観光業従事者と地域住民が共に演じるなど、次の50年を見据えた取組みを行った。 今後は、地域住民と観光事業者が協働し、南信州地域の観光地として、多くの交流人口を創出するため本事業が継続的に行われるよう、自走に向けた取組みが検討されることを期待する。
40	遊休荒廃農地へ「ヘーゼルナッツ」植栽事業	阿智村ヘーゼルナッツ協議会	遊休荒廃農地の増加を打開するために、新たな作物として「ヘーゼルナッツ」を植栽し、将来的に6次産業化を目指す。安定した収入が確保できる新しい農業のビジネスモデルにより、農業に魅力を感じず都会へ流出した若者や就農希望の若者を当地域へ取り込めるようにする。 ・ヘーゼルナッツについての説明会及び植栽に関する講習会 ・先進地の見学会 ・ヘーゼルナッツの植栽 ①ヘーゼルナッツ苗木代	1,049	839	講習会、植栽体験等を通じ、地域でのヘーゼルナッツの関心を高めることができ、協議会への参加者も増加した。 これにより、ヘーゼルナッツの6次産業化に向けた第1歩を踏み出すことができ、また、遊休荒廃農地の削減につながった。 今後はヘーゼルナッツへの理解を広めるとともに、6次産業化に向けたステップを着実に進められることを期待する。
41	持続可能な森林保全の仕組み作り事業	NPO法人はなぶさ学園	適切な対策や管理を行うことによって、森林の生態系や生物多様性の保全、持続的な資源利用、そして地域の森林環境の健全性を確保することができる。また、複数地域、複数団体が連携して協働することにより、持続可能な活動を実現する。 ・鹿竹情報局本部(仮名)を飯田市内に設置し、ワークショップや情報パネル、パンフレット、竹を使った休息エリアを使って、有害鳥獣問題や放置竹林問題の啓発を行う。QRコード看板を設置し、HPに誘導することで、問題啓発のみでなく、地域の魅力を発信する。 ・情報発信サブ支店を管内観光スポット13箇所に設置する。QRコード看板を設置し、HPに誘導することで、問題啓発のみでなく、地域の魅力を発信する。 ①ホームページ改修費、パンフレット印刷費、動画作成費、ワークショップ材料費、QRコード看板作成費	2,805	2,244	放置竹林及び有害鳥獣問題を題材にワークショップや啓発動画の作成を実施した。ワークショップ参加者数とSNS閲覧数が合計で約1万人となり、本活動に対する関心の高さが伺える。また、今後地域の自治体と協働で竹と鹿草の利活用学習を実施することが決定しており、活動の輪が広がっている。 今後は、持続可能な森林保全の仕組みづくりの実現に向けて、自治体や企業と連携した取組がさらに広がることを期待する。
42	食物繊維を多く含む南信州食材の啓発に向けた取り組み	学校法人高松学園飯田短期大学	南信州地域の特産品は、独自の技術を活かした商品が多く、生産量の全国シェアが高いが、若い世代には好んで選ばれる食材になっていない。健康増進効果をアピールすることで、特産品の商品価値を高め、地域食材の普及を目指す。 ・料理教室、ご当地鍋レシピ開発 ・健康増進教室 ・食育出前講座 ①食材費、消耗品費、握力計 ②血圧計	595	459	特に若い世代へ地域の特産品を広めるために、料理教室や出前講座等多くのイベントを実施した。 今後は若い世代にさらに関心を持ってもらえる取り組みの拡大や根拠を示した健康増進効果の広報を行うことにより、地域食材のさらなる普及に期待する。
43	高齢や障害(個人的な生きづらさ)を持っている方々の外出のためのインフォーマルサービス創出事業	南信州おでかけチーム“ウイズ”	南信州地域で、高齢や障害(個人的な生きづらさ)を持っている人も、持っていない人も一緒に「住み慣れた地域・場所で、安心して出かけたり楽しんだりできる地域」を目指し、南信州らしい「新たな外出支援(おでかけサポート)」について取組を進める。 ・キックオフシンポジウムの開催 ・活動普及及び情報発信を目的とした動画の制作 ・サポート養成テキストの作成と地域への働きかけ ・バスリフトの購入と貸出システムの構築 ①シンポジウムチラシ作成費用、講師謝金、情報発信費用、プロモーション動画作成費用、テキスト作成費用 ②バスリフト購入費用	1,355	1,068	地域においてこれまで取り組みが行われてこなかったユニバーサルツーリズムに取組み、高齢や障がいの有無にかかわらずだれでも安心して外出を楽しめる地域づくりのための事業をすすめた。 動画やテキストの活用により地域内外での理解を高め、バスリフトの貸出し等により地域全体でユニバーサルツーリズムを推進していかれることを期待する。

事業番号	事業名 (継続事業 の年数)	団体名 (所在地)	事業実績 (主な用途 ①: ソフト事業 ②: ハード事業)	事業費		講評
				総事業費	交付額	
44	信州伝統野菜「ていざなす」PR事業	天龍村ていざなす生産者組合	リニア開通前に飯伊地域の方々特に飲食店への「ていざなす」の知名度を上げ、取扱い店舗を増やす。消費拡大による生産数の増加や生産者の意欲向上につなげることで、新たな生産者の育成や伝統野菜を次世代につなげる取組とする。 ・「ていざなす」収穫祭を開催し、新メニュー「ていざなすの冷やしラーメン」を村民に無料でふるまう。 ・「ていざなす」ラーメン販売イベント(支援金対象外イベント) ・飲食店及び観光会社へのPRとして、ていざなすの収穫・調理体験をしてもらう。 ①イベント経費、広告費用、PR活動費用	1,369	942	飲食店でのていざなすラーメンの販売数や飲食店・観光会社へのPR参加者数は目標に到達しなかったものの、試食会には目標を上回る200名以上の参加者があり、事業を通じて広く魅力が発信された。 さらに多くの飲食店等の事業者が参加して、ていざなすや他の伝統野菜のPRが持続的に行われることを期待する。
45	地域課題解決を通じたつながり人口創出事業	飯田市	リニア中央新幹線開業を見据え、都市部の若者を中心に飯田市内の放置竹林という地域課題に触れてもらう中で、自身のやりがいや役割を見出し、地域の担い手として活動できるつながり人口を創出する。 ・都市部の若者と地域住民が協働して取組む放置竹林整備事業 ・リニア中央新幹線開業を見据えた地域課題解決プログラムの構築 ①情報発信及びマッチングサイト掲載にかかる委託料、講師謝礼	1,304	960	放置竹林の整備作業には都市部の大学生を中心に80名以上が参加し、そのうち12名はリピーターとして再訪する等、つながり人口の創出に成果を挙げることができた。 今後も継続した事業の中で広報活動やプログラムの充実により、多くの参加者を得て、さらなるつながり人口の創出と地域課題の解決につながることを期待する。
46	地域戦隊カッセイカマン誕生20周年記念事業	地域戦隊カッセイカマンプロジェクト	カッセイカマン誕生20周年を迎えるにあたり、今まで地域で応援してきてくれた方や、地域住民の方と一緒に『これからもずっと活動していくことのできる私たちのヒーロー』として新コスチュームデザインコンテストを行う。 ・ご当地ヒーロー制作事業としてカッセイカマンのコスチュームデザインコンテストを開催 ・新カッセイカマンお披露目イベント ②衣装制作の委託料	1,881	1,410	新たなご当地ヒーローの衣装デザインには多くの応募があり、お披露目イベントも盛況であった。 新カッセイカマンとして、より多くのイベント等で活用いただき、地域をますます盛り上げる存在となることを期待する。
47	地域で自主的に取り組む災害時避難行動支援事業	阿南町	個人の防災意識を高め、地域自主防災組織の体制の見直しを行う。『どうしたら地域の安心・安全を守れるのか』をテーマに地域でアイデアを出し合い、啓発活動を行う。 ・ミニ防災会議の開催 ・避難行動支援啓発物品の作及び配布 ・地区防災懇談会 ①避難行動支援啓発物の作成	1,650	1,237	今回の事業を通じて、地域住民が各地区・個人レベルで避難の方法を認識でき、自助・共助の防災意識が向上した。また、各地区で防災リーダーを担える人材が発掘できたことで、今後は地域全体での避難行動支援が期待できるものとなった。 この取り組みが一過性のものとならないよう、各地区等が自主的にミニ防災会議のような取り組みをできるよう支援をしていただきたい。
48	野池親水公園内の池復旧による、観光と人的交流の活性化	千代地区まちづくり委員会	千代地区の財産を守り育てる活動の一つとして、観光資源の環境整備は不可欠である。今回、野池親水公園内にある池を復活させることにより、観光資源としてのポテンシャルを高め、観光と人的交流の活性化を目指す。また、今回の水害の経験から地区で災害の怖さやその対策について学び、地区の防災を考えるきっかけとする。 ・野池第一親水公園内の池及び小水力発電の復活 ・防災に関する講習会の開催 ②導水パイプ工事費用	2,475	1,856	公園の魅力を上向きさせるために、池の復旧を実施した。 今後は、公園の利活用により人的交流の活性化を図るとともに、地域全体で公園を維持管理する仕組みを整備していただくことで、公園が地域のコミュニティの中心としてさらに充実した拠点となるように取り組んでいただきたい。
49	三遠南信広域連携プロジェクトVol.1～売木村と浜松をつなぐ～	売木村	関係人口創出のため、売木村の立地や環境を最大限に生かし、都市と地域をつなげる地域間交流を促進する。また、都市と地域をつなげ地域間交流を促進することで、一つの地域だけでは打破できない課題を解決し、両地域にとって相乗効果を生み出すことを目的とする。 ・浜松の中心市街地から売木村ツアーの実施(コナラ伐採、薪割り、炭焼き等の体験) ・浜松の中心市街地でイベントの開催(きのこ用ほだ木に菌打ちワークショップ) ①企画委託料、講師謝礼、燃料代、会場使用料、機械レンタル料	1,359	1,087	浜松市との地域間交流を促進するために、売木村の地域資源を生かした様々なDIYワークショップを実施したところ、130名を超える参加者があり、その後のつながり人口の創出につながった。 この取り組みの結果を踏まえ、イベント内容の改善や新たな取り組みについて検討が行われ、さらなるつながり人口の創出につながることを期待する。
50	売木村インバウンド拠点づくり～Deep Japan PJ～	売木村	外国人観光客の観光需要が高まる中、インバウンドの受け入れ体制が不十分であり、観光施設の事業者も言語がわからないため問い合わせがきても対応できない現状がある。インバウンド受け入れ体制を整えるため、「うるぎ国際センター」を窓口施設として、外国人観光客が安心して過ごせる宿泊施設として整備する。 ・インバウンド窓口施設(うるぎ国際センター)の改修工事 ・漆喰塗体験のワークショップ ・観光事業者の意見交換ワークショップ ①ワークショップ委託料 ②インバウンド窓口改修工事費用	5,000	3,764	インバウンドの受け入れ体制を整備するため、うるぎ国際センターの改修工事による古民家ゲストハウスの整備と意見交換ワークショップを実施した。 観光事業者や地域の方等の意見を取り入れ、同施設を拠点にして村全体で観光施設の利用促進を図る仕組みの構築に繋げていただきたい。

事業 番号	事業名 (継続事業 の年数)	団体名 (所在地)	事業実績 (主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業)	事業費		講評
				総事業費	交付額	
51	阿智村の特産 品ブランディ ング事業	株式会社 阿智屋神 観光局	<p>阿智村には様々な特産品があるが、地元住民を中心とした近隣市町村での利用・消費が大半であり、「阿智村のこの地域の特産品といえばこれ!」という認知が広まっていないのが現状である。特産品のウェブページを立ち上げ、新商品の開発等を行うことで、地域ブランドを確立させ、認知拡大・販路開拓・地域活性化に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特設WEBページの制作 ・清内路特産品「あかね大根」を使ったあかね焼酎のリキュール化 <p>①リキュール製造費用、箱・袋・ラベルデザイン製作料、レシピプロデュース費用、WEBページ制作費用</p>	5,638	1,147	<p>地域の伝統野菜である「あかね大根」を使用したリキュールの商品開発を行い、新たな地域の特産品を生み出すことができた。さらに、地域の方と協力してリキュールを使ったレシピを考案し、地域内でのPR活動を行った。</p> <p>今後は関係機関や観光施設等と連携し、開発した特産品のさらなる認知度向上と販路開拓に取り組んでいただきたい。</p>